

第 3 回

大阪四大学交歓演奏会

6 月 1 7 日 (土) '67

大阪大学中之島講堂

6.0 0 p. m. 開 演

— ご あ い さ つ —

今宵はようこそおいで下さいましてありがとうございます。

我々の四大学交歓演奏会は今年で第3回目を迎えることになりました。4年前の第2回演奏会以来、今年に至るまで演奏会は開かれなかったわけです。その理由は、過去2回の演奏会が単なる joint で終わってしまい、交流がなされなかったからです。そこで、我々はこの1年間、過去の「交流のない交歓演奏会」を深く反省し、環境条件の類似した、しかも地理的に近距離にある、この大阪4大学のあるべき姿を再度にわたって検討してまいりました。そして、我々は「4大学の相互理解と交流を深め、それを通じて各大学、ひいては大阪の音楽レベルの向上に努力する」という目的を設定しました。そして、また4大学の交流を深める為に、従来のマネージ担当校制を廃止して、各校より運営委員を選出し、運営委員会を組織して、合議制、職務分担制を施行しました。この1年間に20回に及ぶ運営委員会と、2回のジェネラル・ミーティング（全部員が一同に会しての話し合い）を行って交流を深めてまいりました。今宵のこの交歓演奏会は、このような過程にもとづき、上記の4大学の目的にそって、「お互いに演奏を直接聞き合って批評し合い、さらに一般外部の人々の批評の声をあおごう」という主旨で開かれました。それ故、我々グリーンメンが観客席に規定の座席を設けて、他の大学の生の演奏を聞く、という思い切った企画を実施しました。そういった点で、従来にないような形式の演奏会の為に、皆様に若干の御迷惑をおかけするかも知れませんが、我々の趣旨を十分に理解下さったうえ、御了承下さいますようお願い致します。

大阪大学男声合唱団

大阪府大グリーンクラブ

大阪市大グリーンクラブ

大阪外大グリーンクラブ

— 同 —

プログラム

I 海のヴァリエーション

…………… 大阪大学男声合唱団

1. 日本海
2. Bering fantasy
3. 海

作詩 草野心平

作曲 佐藤 真

指揮 四方道男

II 草野心平の詩から

…………… 大阪府立大学グリークラブ

1. 石家荘
2. 天
3. 金 魚
4. 雨
5. 桜 散 る

作詩 草野心平

作曲 多田武彦

指揮 八尾孝司

—— Intermission ——

四大学合唱団を激励する

長 井 齊

わが国の合唱は、実行力の最も旺盛な大学の男声合唱団によって先導され、今日の水準に到達していることは、その歴史を遡るまでもなく明白な事実だと思うのです。ですから全国には四連或は六連と通称される大学男声合唱団の連合体が組織されて、全国合唱界の推進源になっていることは、既に衆知のところですが、本日此处に登場する4大学も更にその連結を強固にして、その意気に燃えた演奏を公表することは、前に述べた意味をこめて誠に当を得た企てと協賛の意を表するものです。

尚、この大阪四大学演奏会には、郷土大学合唱の実力向上に寄与する意図を充分に自覚してそれぞれ熱演を展開されるよう念願して、多大の声援と激励の言葉を贈る次第です。

Ⅲ 富 士 山

………… 大阪市立大学グリークラブ

作品 第 壱

作 詩 草 野 心 平

作品 第 肆

作 曲 多 田 武 彦

作品 第 拾捌

指 揮 山 田 稔

作品 第 貳拾壱

Ⅲ 黒 人 霊 歌 集

………… 大阪外国語大学グリークラブ

Wade in the Water

指 揮 光 畑 記 夫

Swing Low Sweet Chariot

Listen to the Lambs

Sister Mary wore three lengths of chain

Go down Moses

第 3 回 「大阪四大学交歓演奏会」に寄せて

加 藤 直 四 郎

一時中断れされていた「四大学交歓演奏会」が再会されたことは、各大学グリークラブ当事者の御熱意の表われで、誠に喜ばしいことです。

ここに集られた4大学のグリークラブは、何れも関西合唱界のホープとして活躍中の方達であり、而もその4大学が一堂に会して交歓演奏会を催される意義は実に重要であると思います。これはコンクールではなく協力であり、お互いに励まし合い、磨き合って高いレベルに到達する努力こそ純粹であり、理想でありましょう。この力が関西の合唱界を支えて、更に進歩させる原動力となることを信じそれを期待して居ります。

演奏会には各大学独自の曲目の演奏に精魂を傾けられることゝと思いますが、日頃の練習の感動を心から歌い上げて、学生合唱の本分を発揮して下さい。

この素晴らしい交歓演奏会が決して中断することなく、いつまでも持続して行かれることを心から念願してお祝いの言葉といたします。

「曲 目 紹 介」

「海のヴァリエーション」は佐藤真の数少ない男声合唱曲のひとつであります。

歌詞が曲にぴったりとマッチしていて、それでいて豪快なハーモニーの転回は作曲者の、さらには男声合唱の魅力の全てをさらけ出すものだと言えるでしょう。

人間の小っぽけな心に比して、あくまでも冷酷で非常なる海を歌い、空を歌い、そして自然の大きさを歌い上げているこの曲は一面では人間の死のはかなさを雪をかりて歌い上げております。組曲全体として言えることは大きく、重く、暗く、そして冷たい感じの曲だということですが以下各々の曲について簡単に触れてみます。

「日本海」のしかかる雲の下で、強風に荒れ狂う海の荒々しさを歌った歌で、自然の偉大さをひしひしと感じさせます。

「Bering—Fantasy」小節ごとに転回していく和音は男声合唱独特の魅力を満喫させてくれます。

「海」 永遠に変わらぬ海を歌ったこの曲は大自然の悲しいまでの冷静さを象徴しているようです。技術面から言ってもこの組曲は相当の難曲で、特に一番の「日本海」は難曲中の難曲だと言われています。

海は己れの海鳴りをきき。

なだれる波に波はくずれ。

海は非情の海鳴りをきき。

凪いだ夜の海面に。

天は己れの天をみつめ。

天はどこまでもの天につづき。

天は非情のから鳴りをきき。

億兆億の雪が沈む。

「この作品は、1864年の春、東大コーラアカデミー合唱団から依頼されて作曲したものである。初演はその年の秋、同合唱団の定期演奏会で、前田幸一郎氏の指揮により行なわれた。

なお「海のヴァリエーション」という名前は、この組曲のために草野心平氏がとくにつけて下さったものである。1966年3月佐藤真」

「男声プロフィール」

大阪大学男声合唱団

我々大阪大学男声合唱団は昭和26年12月27日、当時教養部のあった北校（旧浪高）や南校（旧大高）の合唱を牛耳っていた連中が集まって誕生して以来、今年で16年目を迎えます。発足当時の我団の特徴としましてはドイツもの、中心の傾向が強く、関西合唱界に於きましても、異色の存在として注目されてまいりました。しかし最近のステージでは邦人の組曲や、黒人霊歌、シーシャントーなども手がけ、片寄らず、バラエティーに富んだ選曲をと心掛けるようになってきております。これも団の成長を物語る一つの表われかと考えています。

大阪大学は御承知のようにミタコ足大学、と言われており、各学部が各地に散在しております為、練習場一つにしても地理的、時間的な条件に恵まれておりません上に、カリキュラムの問題や留年の問題などサークル活動をする上で非常に困難の多い大学であります。

しかし昨年度は大阪府合唱コンクール第1位入賞、関西合唱コンクール第5位入賞などその悪条件にもめげず、ようやくその存在を他に認められるようにまで成長してまいりました。この様に苦しい条件の中で活動している団員は、それこそ団外の人から見れば、バカと思える位（彼女ばかりではなく）男声を心から愛する者ばかりで、合唱にとって大切な、団員相互のメンタルハーモニーも非常によくとれています。又それが我団の唯一の強みだとも言えましょう。

例えばコンクールの為の秋期合宿ではまだ試験の終わらない学部の学生も居て、夜遅く練習が終ってから、合宿所の蒲団部屋で必死になって本にかじりつくものや、1人トイレの明りにノートをむさばり読むものなど、親や彼女が見れば何と思うだろうか心配する位、みんな「男声バカ」なのです。この団員の男声バカも16年間変わらない伝統のようです。

又最近の傾向として、意欲的に学外団体との交歓をおし進めています。昨年7月の岡山大学グリークラブとの交歓演奏会、今年4月の大阪6大学合唱祭などを経て今夜の演奏会を迎えました次第です。

まだまだ未熟児で今後与えられた課題も多いと思っています。今後共、御指導、御鞭達の間、よろしくお願い申し上げます。

草野心平の詩から

作詩 草野心平
作曲 多田武彦

曲目解説

この曲をお聴きいただく前に、まず草野心平について紹介せねばならない。

彼は慶応普通部を退学し、16才で中華民国の広東に渡りその嶺南大学に入った。そして大学時代、亡兄民平の遺稿に刺激され、この頃より詩らしきものを書き始め、「銅鑼」等のガリ版の詩集を大学寄宿舍で創刊した。その頃の中国は孫文の革命から満洲事変へと目まぐるしく変貌しており、彼も中国の排日運動のあおりを受けた。

こんな背景から初期の彼の作品は精神的な飢餓と反代時的な純潔よりアナーキズム（無政府主義）の性格が強かった。しかしこの生活意識の熱情性が彼をして、しだいに東洋的なフォービズム（野獣派）へ到らしめたのである。そして根からの美意識でもって、熱情のおもむくままに自由に詩を駆使することに努めた。「絶景」や「富士山」等いわば彼の第2期の作品である。

なお、後年も長く南京に定住し、そのため中国の人事風物は彼にエキゾチックな感懷を起こさせず、東洋精神特有のワナにも落ちこまなかった。それどころか返って大胆に巨視的にアジアのヴィジョンを創造し、そこから宇宙の意味にまで迫りえた。

地上のあらゆる卑小なるものに対しての徹底的な返逆と激烈な怒り、「蛙」等で、周知の通り詩の多様なスタイル、豊富な色彩と擬声法の効果、それに寓意的なユーモアと哀感をたたえ、さらに深化し古典的な美しさまで昇華する。こういう詩人は日本の詩の系譜から見て孤立孤高の感を免れないが、それこそ彼にとっては名誉なことだ。

1. 石家荘にて 荒漠とした支那大陸の中に沈む町、石家荘に必らず、それは草野心平にしてみれば十文字愛憎を残す捨て難い町となるのである。
2. 天 心平の詩には天という字が無数に出てくる。それ自体、対象とするにはあまりにも大きすぎ、背景となった時には千変万化をやってのける。富士の後に立つなら、富士は五センチの出べソと化してしまう。天こそ、時空を絶した無限のものである。
3. 金魚 おおみどろの大琉金、遠い支那の思いを促すかのごとく、夢の様に静かにゆらめいている。
4. 雨 温泉の番傘に降る雨、林檎畑にふる雨、ここには庶民的な味わいがうかがえるが、その雨を奥の又奥から降らせている天とは一体何か。
5. さくら散る 心平の美意識が最も端的に表われている。「はながちる、東洋の時間の中で、夢をおこし、夢をちらし……」時間の中にありながら、しかも時間を超越した美。

大阪府立大学グリークラブ プロフィール

我が府大グリーは、昭和24年浪速大学の発足と同時に浪速大学コーラス部として出発しました。その後、昭和30年浪大が「大阪府立大学」と改称されたのを期に混声と声男に別れ、男声がグリークラブとして現在に至っているのです。その間地味ながらも次第にその活動範囲を拡げ、昭和32年東京都立大学グリークラブの賛助をえて、初のリサイタルを開いて以来、定期演奏会11回、東京都立大学との交歓演奏会11回を数えるまでになりました。その他、対外的には、関西合唱祭、コンクール、京都府立大学賛助など、対内的には、春夏の合宿を始め新入生歓迎会などスケジュールがぎっしりつまり、名実共に学内のクラブナンバーワンになりつつあります。部員数は現在約40名、その半数以上は合唱経験が余りないといった者で、学部別にみれば実験、実習の多い工学部、農学部の学生が約半数を占めるといった状態でクラブ活動は大変行いにくい現状です。しかし、唯歌うことに憑かれ、スケジュールに追われ、練習のために勉学、アルバイトの寸暇をさいています。元々素人ばかりより成る我々の合唱団ですから、演奏技術の未熟さは否定するべくもありませんが、今後は、モットーとする部員間のメンタルハーモニーはもとより、演奏技術の向上を目指して努力する覚悟です。

富士山

草野心平 作詩

麓には桃や桜や杏さき
むらがる花々に蝶は舞ひ
億万々の蝶は舞ひ
七色の霞たなびく

夢みる私くしの
富士の祭典

ぐるり一面花はさき
ぐるり一面蝶は舞ひ
昔からの楽器の全ては鳴り出すのだ
種蒔きのように鳥は集り
日本の全ての鳥は集り
楽器と一緒に歌っている

夢みる私くしの
富士の祭典

七色の霞は雪に映え
七色の陽炎になってゆらゆらする
鹿や猪や熊や馬
人はいないか人もいるいる
へうたんの酒や女の舞ひ
標野の人も歌っている

ああ
夢みる私くしの
富士の祭典

遠く大雪嶺からは黄鳥が
使者になって花を御えて渡って来る
三つの海を渡って来る

クラブ紹介

大阪市大学グリークラブ

ほう、君はなかなかいい声をしているね。こんなにすばらしい声を埋れさせるのは非常に残念だ。合唱経験の有無は関係ないんだよ。音楽に興味があるというだけで充分。まア、一度、部室に来て君の美声を聞かせて下さい。

入学式の日、学生服を着た、一見、まじめそうな新入生の男性諸君を掴まえては、女性を勧誘出来ない虚しさ押し殺し、不気味な笑いを浮かべ、齒の浮くような美辞麗句を駆使して努力した結果、20名の新入部員を迎えて総勢70余名となり、今年の新しい活動が始まったわけです。

5月6、7日の両日、浜寺で新入生歓迎合宿を行ないました。まず、パート対抗ソフトボール大会。日頃、グリーの吹溜りと言われているバリトンが大いにハッスルして優勝した。いつも二枚目面してメロディーを歌っているトップテナーが最下位。しかし、なんと言ってもこの合宿の呼び物は二回生以上のカルテット大会でした。技術系部員が審査員。抽選で臨時に組まれた10組のカルテットが「我らこそは」と、課題曲を歌い始めたのは良かったのですが、どうした事が、演奏中、笑い声の絶え間なし。終了と共に、ダークダックスでも足元にも及ばない程の大喝采を浴びて、てれくさそうな顔をしながら舞台から降りてくる面々。指揮者が批評して言うに「音が狂ってハモらないのと不協和音とは別だ」と。最後に、技術系部員が模範演奏と勇んで登場したが、結果やいかに？我が市大グリーの名誉のために書かない方が賢明だと思う。以上の様に今回の合宿は楽しく過ごしたのです。

我がグリーは愉快的連中の集団ではありますが、大学合唱団のあり方や大学生活におけるクラブの意義etcについて、再三、討論を繰返して行ない、又、練習に対する真剣な態度はどこにも劣らないと自負しています。

本当に僕達は歌が好きなのです。歌っている時が最高なのです。僕達はいつも大きな声を張り上げて歌っています。

♪歌があれば、何もいらぬ、と。

黒人霊歌

奴隷として、帆船急行便にすし詰にされ新世界に送られたニグロは、極一部のハウスニグロを除いて、あたかも牛馬の如く酷使された。

こうしたアメリカニグロが、白人の宗教であるキリスト教に取り憑かれたのは、世界観の相違に基づく亜仏利加邪教の禁止、ニグロの、征服者の神に対する畏敬の伝統と、聖書にあるユダヤ人達の境遇に対する共感からであった。ユダヤ人の約束の地に対する熱情は、その儘ニグロの悲願に通じたのである。この様な切望と、アフロクリスチャン不可避の要素である音楽とがあいまって形成されたのが、黒人霊歌である。

これは、アフリカ的なリズムに、忘れ行くアフリカ語に代って、無意味な、語呂だけの英語・歌詞に置換された労働歌謡、を基盤として出来たものである。その特徴は、シンコペーション、強拍の位置移動、音色の質的变化、ヴィブラート効果などであるが、殊に、シンコペーションは熱狂的な性格を伴って、霊歌の基礎リズムとなっている。

黒人霊歌の多くは、現世の惨苦を越え、天国への到着を唱ったものであるが、このことは即ち、解放へ憧憬を意味しているのである。

Wade in the Water

渡れ 渡れ 子供達よ
主の恵み 海は波立つ
かの赤き列を見よ
ファラオの率いる軍ならむ
いざ 渡れ 子供達
かの 白き列を見よ
モーゼによって率いられ
出エジプトに心湧く
イスラエルの民ならむ
いざ 渡れ 子供達
主の恵み 海は波立つ。

Lieten to the Lawbs

小さな声で 小羊が
ほら みな 今 泣いている
小さな声で 小羊が
ほら 泣いている 泣いている。
羊飼なるキリストよ
迷える小羊を導き
その胸に 抱かせ 絵え。

Go Down Moses

イスラエルがエジプトにあり
圧制に耐えかねていた時のこと。
「モーゼよ エジプトに下り、ファラオを
告げよ 我が民を解き放て」
かく主は宜いて モーゼはファラオに伝え
たり。
「我が民を解き放て
さもなくば 汝が長子を殺めむ」と。

Swing Low Sweet Cweet Chariot

美しき戦車は揺れて
私を迎えにやってくる。
ヨルダンの流れの向うに何を見た。
天使が飛んで来るを見た。
美しき戦車は低く揺れ動き
私を迎えにやってくる。
友は皆行き、私も
今 まっすぐに 飛んで行く。

プロフィール

外大グリークラブ

私達大阪外国語大学グリークラブの創立は昭和初年で、40年の伝統を持っています。

現在の部員数は50数名。単科大学のため（全学で2,000人 足らず）部員不足に例年泣かされています。しかし私達は、部員不足を補うものとして部員間のまとまりを誇りにしています。また全課程、全語科が一つの学舎に統一されているのも、部員間のまとまりにあずかって力があります。

昨年暮、戦後クラブ再建後第10回の定期演奏会を持ちました。今年から第2の段階に足を踏み出したところです。今までにつちかわれてきた「外大の黒人霊歌」の伝統にさらに磨きをかけるため、Negro研究会ができて、歌うだけでなく歌の背景から理解するよう努めています。また外国語を学んでいるという利点(?)を生かして外国の曲に意欲的に取り組んでいます。

クラブ活動も活発です。今年になってからは3月に岡山、新居浜へ演奏旅行へ。合ハイ。新入生歓迎合宿。合唱祭参加。そしてこの大阪四大学交歓演奏会。これからは夏季合宿、コンクール参加、暮の定演と続いています。

今宵、新入生にとっては2回目のステージ。新入生の諸君、落ちついて、指揮者をよく見て唱ってくれよ。そうすれば GAIGO WILL SHINE TONIGHT たぞ。

四大学のあゆみ

昭和37年の1月、以前から大阪の大学グリークラブ間の交歓を深めようとの声があったのですが、国公立で、性格的にも類似し、同じ悩みを持つもの同志がよかろうとの事で、今夜と同じメンバーで演奏会を持つ事が決定されました。

第1回は、同年6月に毎日ホールで行なわれ、一応の成功のうちに終わりました。

第2回は翌年サンケイホールに於て行なわれましたが、この年は11月に行われた為、外大を除き、定期演奏会との関係で、スケジュールに於いて、また会計等において弊害があらわれてきました。

このように第1回、第2回との演奏会を開いたのでありますが、第3回を開こうとするに至って、表面的にはスケジュール等の為でありましたが、根本的には四大学の本質的な在り方に対する追求の欠如、そしてそれにより派生する諸問題により、中断せざるを得なくなりました。

其の後39年の秋より、四大学の在り方を考えようと、幹事会を作り、初期の演奏会が何政中断せざるを得なかったかを検討しました。そして39年には5月、41年には9月に大学のグリーンメンが集り、ミーティングを行い、同様の討議、併わせて今後の方針を話し合いました。また昨年春から隔週に幹事会を持ち、秋に一応の結論を得たのであります。

その結論としては、四大学の集る目的として「四大学は互いにその交流を深め、互いの合唱レベルの向上を図り、ひいては大阪府の合唱レベルの向上に寄与す」。としています。

我々は一般の交歓演奏会に疑問を抱き、特に互いに近接校である利点を生かして、互の理解を深める機会を多く持ち、一緒にクラブとしての問題、技術的な問題を討議し、それと併せて、演奏会を持つようとしています。そして演奏会に於いては、従来の形式主義を排除し、演奏会そのものが、観客の皆様御批判と共に、我々自身としても互いに批判できるようにと我々も客席をフルに活用させていただきます。このようにしてミーティングと演奏会を相補してゆくものにしたいと思っております。

目的として「大阪府……」の言葉が有りますが、日本の合唱界で高い水準を行く関西にありながら、低迷を続ける大阪府大学合唱会に対する心意気を御理解頂ければ幸いに存じます。

どうか我々四大学の趣旨を御理解頂き、演奏に厳しい御批判を頂きたいと思います。

四大学演奏会運営委員

阪大	倉橋 正美	樋口 博雄	市大	鎌田 礼章	桜井 日出雄
	平林 俊彦	山辺 直基		田中 利治	安井 永
	祐源 嘉明			和田 昭夫	
府大	木村 龍介	倉本 一雄	外大	安藤 雅之	井上 尚弘
	浜田 元正	森末 一成		角田 広	竹原 研一
	吉化 善継			山口 正晴	

(各校アイウエオ順)